



碧南市が目指している主な方向

碧南市の将来の課題を見据え、その対策など、目指している主な方向は以下の通りです。

- ① 有利な税収の確保が、優れた安心安全施策、福祉施策、文化教育施策などの前提となるので、将来にわたって有利な税収が確保できるよう、工業用地の確保と企業誘致の実施や設備投資への支援、ふるさと応援寄附金制度の充実などを行っています。
- ② 人口が減っていくと、道路、水道、下水道、電気、公共施設などに対する人口1人あたりの経費が膨大になることから、維持困難となり、市民生活に支障をきたすことになります。そのため、人口をできるだけ減らさないように、住宅を建て、子どもを生み育てやすい環境を整備する部分に重点的に予算を使っています。また、地域の周囲に農地と工業団地、中心部分は住宅などが集中していくような、効率的な都市整備に努めています。一部、刈谷市や安城市にある企業へ通勤する人のベッドタウン

としてのPRも強化していきます。

③ 今後、高齢化がますます進行していきます。高齢者もできるだけ元気な状態で社会参加をしてもらい、できれば80歳ぐらいまで現役並みに活躍し、楽しく健やかに過ごしてもらうために、入浴券配布事業、貯筋ルーム事業、レクポン（高齢者向け卓球）やグランドゴルフなどの普及、おたつしや大学や健康を守る会などでの健康意識の普及活動を活発に行っています。おかげで、碧南市は相対的に介護や医療に支出する費用が少なく済んでいます。

④ 近い将来に発生する恐れのある巨大地震に対し、その被害の最小化に向けて可能な限りのハード、ソフト面の対策を継続的に粘り強く進めています。平成27・28年度は、名古屋大学減災連携研究センターの指導を受け、臨海部の工業団地も含めた減災対策を確立していきます。

⑤ 現在、交通手段や通信手段の進歩により、世界中が緊密につながっており、平成20年のリーマンショックのようなことが、いつ発生しても不思議ではない世界に住んでいます。中国の経済が今後どうなっていくのか、伝染病やテロは今後どうなるかなど、将来的リスクもある程度は意識する必要があります。したがって、市の財政調整基金残高は、リーマンショック前と同レベルの約80億円くらい（予定納税分も含めて）は確保しておきたいと考えています。

衣浦東部広域連合ニュース

問合せ 衣浦東部広域連合事務局 ☎(63)0131

8月25日に衣浦東部広域連合議会定例会が刈谷市役所で開催されました。議会では、3人の一般質問のほか、平成26年度一般会計歳入歳出決算認定、27年度一般会計補正予算（第1号）など4議案が可決されました。

平成26年度衣浦東部広域連合一般会計歳入歳出決算を認定

歳入総額は52億842万5,809円となり、歳出総額は50億5,208万5,521円、差引残額1億5,634万288円となりました。

歳入では、関係市の分担金が49億9,807万4,492円で全体の96.0%を占めています。

歳出では、消防費が48億5,132万5,234円で全体の96.0%を占めています。

歳入

単位 円

科目	予算現額	収入済額	構成比	収入率
分担金および負担金	4,998,074,000	4,998,074,492	96.0%	100.0%
使用料および手数料	15,252,000	18,797,736	0.4%	123.2%
国庫支出金	1,000	0	—	—
県支出金	160,000	160,000	0.0%	100.0%
財産収入	1,000	30,000	0.0%	3,000.0%
寄附金	1,000	0	—	—
繰越金	168,337,000	168,336,508	3.2%	100.0%
諸収入	19,388,000	23,027,073	0.4%	118.8%
計	5,201,214,000	5,208,425,809	100.0%	100.1%

歳出

単位 円

科目	予算現額	支出済額	構成比	執行率
議会費	2,540,000	2,182,737	0.1%	85.9%
総務費	203,635,000	188,628,358	3.7%	92.6%
消防費	4,964,589,000	4,851,325,234	96.0%	97.7%
公債費	10,450,000	9,949,192	0.2%	95.2%
予備費	20,000,000	0	—	—
計	5,201,214,000	5,052,085,521	100.0%	97.1%